

議員（松岡 忠）

6番、松岡 忠です。令和4年12月議会の一般質問を一問一答方式で行います。我々のメンバーでの最後の議会であります。私がこれまで質問してきました案件で、どうしてもこれだけは聞いておかなければならないと思いますので、質問したいと思います。

丸尾町長は、次の町長選挙に立候補することを表明していますが、これまでの質問してきた幼稚園の案件は、私にとっては、有耶無耶いう格好になっております。次に、次期、舵を取るとされる町長には、どのようなお考えがあるかお伺いしたいと思います。これまで町長の行ってきた中学校・消防署・庁舎・地域交流センター等の建て替えと多度津駅の跨線橋と多くの実績がありますが、この案件はもう終わっております。

そこで、これからのことについて、お伺いしたいと思います。

最初に1番目、今後の多度津町行政に質問したいと思います。最初、次期の公約として、これだけはどの案件はありますか。そのことについてどのようなお考えをお持ちかお伺いします。

町長（丸尾 幸雄）

松岡議員の次期の公約として、これだけはどの案件はありますかについてのご質問に答弁をさせていただきます。

引き続き、住民サービスの更なる向上を目指して、安心、安全で暮らしやすい町づくりを行い、多度津町の特色である歴史、伝統、文化を活かした魅力のある町づくりを行い、移住、定住人口を増やしていくため、地方創生事業にこれからも取り組んでまいりたいと考えております。

以上、答弁とさせていただきます。

議員（松岡 忠）

次に、重要案件は何がありますか、お伺いします。町長お願い致します。

町長（丸尾 幸雄）

松岡議員の重要案件は、何がありますかについてのご質問に答弁をさせていただきます。財政の健全化を図っていくための「まちづくり公社」を立ち上げ、恒常的な財政の健全化の礎を作ることを重要案件と考えております。

以上、答弁とさせていただきます。

議員（松岡 忠）

次に、町長は常に優先順位とおっしゃいますが、幼稚園の統合は、どの位置にありますか、お伺いします。

町長（丸尾 幸雄）

松岡議員の幼稚園の統合事業の優先順位についてのご質問に答弁をさせていただきます。本町の幼稚園・小学校の適正規模・適正配置につきましては、これから少子化対策と

して、どうしても必要な事業だと考えております。特に幼稚園園舎の耐震化は完了しておりますが、老朽化は進んでいますので、優先度は小学校よりも高いと考えております。ただし、直ちに切り掛かるのではなく、本年6月議会において教育委員会より報告のあった案を中心に町民の皆様へ周知をし、最大公約数的な同意は必要だと考えております。本事業につきましては、本年度の施政方針でも述べさせて頂いたとおり、主要施策の一つと考えており、その他の主要施策との優先順位の差はないものと考えております。

以上、答弁とさせていただきます。

議員（松岡 忠）

ここでちょっと再質問したいと思います。毎回、町長が言われるんが、みんなに相談して決めないかと。ここに町民の皆様へ周知し、最大公約数的な同意が必要だと考えております。と答弁がりましたが、この周知はいつ頃する予定でありますか。

町長（丸尾 幸雄）

施策の方針を決めるのは、私たちでありますけども、それをいつ実行するかというのは、それは担当の役職になりますので、教育委員会を中心に考えて頂けるものだと思っております。

以上、答弁とさせていただきます。

議員（松岡 忠）

再々質問。今、町長が教育課と言われたんで、教育課の方で答弁お願いします。

教育長（三木 信行）

松岡議員の再々質問に答弁をさせていただきます。

今、具体的に、どのような形でいつということは、まだ決めてはおりません。

町長の方がそういうお考えなので、それはこれから検討していくというところだろうと思います。で、方法としては、例えば、こういう状況になっているという辺りをパブリックコメントにするのかとか、あるいは説明会ということがあるのかどうか、その辺りのことも今、検討と言いますか、話はしておるんですが、例えば方法として2つの案があるんですが、どちらがいいですとかってというような、やり方なんか難しいのかなという風なことも考えております。

以上、その辺りが考えているところでありまして、以上、答弁とさせていただきます。

議員（松岡 忠）

今、教育長が答弁されましたが、いつ頃というのを進めるのにも町長の決断が要るのでないかというように私、取りましたが、今年度中にするのか、来年度の頭にゴーサインを出すのかいうのを町長、お伺いしたいと思います。

町長（丸尾 幸雄）

先ほども述べましたように、私の方から検討するように指示をしておりますので、その指示に従ってやっていくのは、担当課だと思っております。そして、その担当課

の中で、自分のとこだけで決めるのではなくて、PTAとか子供会とか、また、住民の皆様方とか自治会の方とか様々なところに投げかけて、そして、そのことを進めていくのが、道理ではないかと考えております。

以上、答弁とさせていただきます。

議員（松岡 忠）

前々からその話は同じような答えしか返って来てないんですが、今、2案が出ております。A案とB案と。そのA案とB案が、どちらも決まらんのに教育委員会としたら、全然動けないというのが実情でないかなと思いますので、町長がこれをいつまで決めるかいうのをちょっと教えて頂きたいかなと思います。

町長（丸尾 幸雄）

何度も申し上げているとおりでございますけども、決めるのは、私どもが決めるではありません。それは住民の意見を聞きながら、そして、委員会の中で擦り合わせて来たものそのものを、そのことを私どもに持ち上げて頂いて、そこで検討して、そこで決めて、そして議会にお諮りするというのが手段だと、通常の手段だと思っておりますので、そのとおりに行っていこうと思っております。

以上、答弁とさせていただきます。

議員（松岡 忠）

もう町長の答弁はいつも同じですが、何いうんか、案を出して、この案やというのは、議会の方でも二つの案しか出てないんで、これとこれやったらどっちがええんかのという話は、議員間でも出ておりますし、教育委員の方にもしてみても答えが一つ出ております。それに対して、それで前を進めていくかどうかを決めるのが、町長ではなかろうかと。言うんは、町民の皆さんの同意が要るとか色んなことがありますが、私ども議員は、町民の中から選ばれておりますので、ある程度、町民の代表としての価値があるんでないだろうかなと思いますので、町長お願いします。

町長（丸尾 幸雄）

以前にもお話ししたと思うんですけども、私ども行政は、住民自治ということを常に頭に入れて、行政を行っております。その住民自治ということは、住民の皆様方の最大公約数的な考え方を基に案を作り、そしてそれを議会に提出をして、そこで承認を頂くという手順が普通だと思っております。今、もしも、もしもですね、私どもだけで、議会とだけで決めて、そしてそのことを進めた場合に、もし反対している住民が怒った場合、それは住民無視の議決、住民無視の決定になっていきますので、そのことは私どもは避けなければいけない。だから、十分に検討するということ。慎重に慎重を重ねて、今、教育長がパブリックコメントって言いましたけども、そのパブリックコメントじゃなくて、本当に十分にPTAとか子供会とか、また自治会の皆様方とか、これは大きな問題になります。今、幼稚園が4つあるのが、1つか2つか。今のところは1つの方向で進んでますけども、そのことを理解してもらうのは、住民の方

の理解が必要です。そのための素案を作っていくということが、私どもの課せられた使命になりますので、まずは、住民が主体、住民自治ということを常に、以前にもそれを申し上げだと思えますけども、私どもと議会とが決めてやっていくことではないと思っております。

以上、答弁とさせていただきます。

議員（松岡 忠）

今、町長が町民の皆さんの賛成でないと出来ない。何をやるにしても100%賛成でやっていける事業、一つもありません。この庁舎にしても同じです。この庁舎で100%良かったかなという話は、私も聞いておりませんし、出来たもん、しょうがないがと。そこでやっていかないかんだらうがというのが町民の答えだと思えます。それじゃ、次に、何ですか。

町長（丸尾 幸雄）

私どもが行っている行政、住民自治の上において、住民の皆さん方の最大公約数的な承認は得ることが必要だと考えております。ただ単に私どもと議会とで決めて、それを推し進めていくものではありません。それは今まで、庁舎にしてもそれから福祉センターにしても、全てそのような形で行って来ております。同じように全ての施策をそのように行っていくつもりでありますので、ご理解のほどお願いしたいと思います。

議員（松岡 忠）

また、質問せないかんようになりました。今、町長がここの庁舎にしても決めて来た。議員さんが決めて来たんやと。私がこの議員になった当初、この場所について町長に質問したら、もう議会で決まったことやから、この場所は変えられないというのを聞きまして、その時には、場所はここに決まっとんやと。で、建物は、どんな建物になるかいうのはまだ決まってない。3階になるか、4階になるか、こういう案がありますよというだけ言われて、実際に実行してみたら、ここの庁舎は3階建てまで、4階や初めから建てられなんだというのを後から知りました。ある程度の内容は、議会の方でも、今まで、町民の代表として上がって来ている以上は、みんな代表なんで、一人ひとりの答えは違うかと思えますが、ある程度の自分に課せられた使命いうんは、町民の代表やという気持ちで議会に臨んでいると思えます。私の質問まだ、ちょっとようけあるんで、後の分の中に、またひっくるめた上での質問をさせていただきます。

次に、町の物件で老朽化しているサクラートたどつ・町立体育館・各地区公民館等の箱ものについては、どのようなお考えがあるかお伺いします。

町長（丸尾 幸雄）

松岡議員の町の物件で老朽化している施設等についてどのような考えがあるのかについてのご質問に答弁をさせていただきます。

議員ご承知のとおり「サクラートたどつ」、「町民体育館」、「各地区公民館」は建設から相当年経過しております。「町民体育館」につきましては、現在耐震診断業務を行っております。診断の結果はまだ出ておりませんが、診断の結果によっては、「耐震補強工事」若しくは「建て替え」という選択をしなければなりません。「サクラートたどつ」につきましては、建物もそうですが、建物内の付属設備等が設置から30年以上経過しており、非構造部材の耐震化を含め、設備機器の更新が必要なものも多くなっておりますので、優先順位をつけ、計画的に改修する必要があると考えております。各地区の公民館につきましても同様ですが、修繕等で対応出来るものにつきましては、予算の許される範囲内で修繕等を行っております。「町民体育館」、「サクラートたどつ」、「公民館」は、修繕・改修に多大な費用を要することになりますので、財政状況を勘案しながら、計画的に修繕・改修を図る必要があると考えております。

以上、答弁とさせていただきます。

議員（松岡 忠）

はい、質問します。

サクラートたどつ、町民会館ですね。ここはもう30年以上経って大幅な改築をやらなにかんと。その前にどうしてもやらないかんという内容も私ちょっと聞いております。特に今、ライト、メインライトを変えないかんという話は聞いております。もう修理がきかないと。もう電球の球も替えがないと。それ、直すのに約6,000万位掛かるんやと。ほんたら、それをいつ予算化してくれるんやろかなと。予算化が無ければ、「サクラートたどつ」は休館にせななんたらいかんというような話もちらっと聞きましたので、町長のお考えをお伺いします。

町長（丸尾 幸雄）

「サクラートたどつ」は、指定管理者制度の中において、教育委員会の教育課の担当の中で維持管理を進めている施設であります。その中で、先日来、色々な補修、改修事業に伴う多額の金額のことを聞きましたので、それは計画的にやっていく。多度津町の今の財政状況を考えながら、それは行っていかなければいけない。という判断をしたので、今の教育課の課長を始め、財団の常務にもその旨を伝えたところであります。

以上、答弁とさせていただきます。

議員（松岡 忠）

ただ今の質問は、後で教育委員会の方に質問している内容の中で、再度お伺いしたいと思います。

次に、多度津町には公共交通機関がありません。このことに関して、今後どのようにしていくべきかのお考えをお伺いします。

総務課長（泉 知典）

松岡議員の多度津町の今後の公共交通についてのご質問に答弁をさせていただきます。以前にもお答えさせていただきましたが、コミュニティバス等を実際運行している他市町の担当者から伺ったことですが、運行にあたり事前に運行するコースや時間、停留所の場所等、様々検討を重ね運行しましたが、運行して間もなく、利用者から停留所までが遠いとか運行時間の変更や運行本数をもっと増やして欲しい等といった改善要求が寄せられ、また、利用者も増えていない実情にも苦慮しているとのことでございました。本町では以前に、中学生以上の町民の皆様を対象に無作為に2,000人を抽出し「多度津町の公共交通に関するアンケート調査」を実施しました。「公共交通の何が満たされれば利用したいのか」との質問には「乗降場所までの距離が近い」ことや「目的地まで直接行って欲しい」などの回答が多数ありました。70歳以上の方では、「バス停等までの移動に不安を感じる」といったご意見もあり、多くの方々がドア・ツー・ドアなどの身体的な負担の掛からない交通手段を望んでおり、この要望は高齢化が進むにつれて、さらに顕著になってくると思われまます。そのようなことから本町では、現在、高齢者福祉タクシー事業を実施しており、令和元年度には対象者や交付額を拡充をし、事業を継続しているところであります。因みに令和3年度の実績としては、交付対象者は3,801名、交付者は2,813名で交付率74%、交付枚数は5万6,260枚、利用件数は3万630枚、交付者使用率は54.4%となっております。対象者全体からの使用率は40.3%と高いとは言えませんが、年々増えている状況であります。また、住民主体の支え合いサービスの「移動サービスチョイ来た」事業ですが、利用者に変化が大きいと伺っておりますので、継続して支援をしていきたいと考えております。このようなことからコミュニティバス事業などの導入につきましては、本町の厳しい財政状況においては難しいと思っておりますが、2050年までに本町における二酸化炭素排出量を実質ゼロにする「ゼロカーボンシティ」を宣言している町として、ガソリン等を使用するコミュニティバスではなく、環境にやさしい公共交通機関の活用も検討していく必要があると考えております。

以上、答弁とさせていただきます。

議員（松岡 忠）

再質問です。町長は、無作為に2,000人を抽出してアンケートをとったと。これ無作為でなく、本当に不便なところに住んでいる人、それにアンケートをとるのが普通でないかと。無作為にして極端な言い方したら、今ここに、この地域に住んでますと。その人らにアンケートをとっても何の意味もないと本当に困っている地域の人からアンケートをとるのが必要かと思われまますが、その気持ちはありませんか。

町長（丸尾 幸雄）

アンケートをとるっていう趣旨は、多度津町の中で、色んな方に同じように、ご意見を頂戴する。ということですので、偏った方々、偏った地域の方にアンケートをとるのではアンケートの意味がないと思っております。アンケートとは、多数の方に、

不特定多数の方に、同じような質問をして、どのようにお感じになっているのか、それを調べて統計を出す。それがアンケートだと思っております。

以上、答弁とさせていただきます。

議員（松岡 忠）

今の町長の答えは、一般にはそれでいいと思います。今回の内容は、困っている不便な場所の人の話を聞いて動かしたらどうかというのが、コミュニティバス等の話でありますので、今の町長の考えは、この案件にしては、ちょっとおかしいのかなと私は思うんですが、町長どうですか。

町長（丸尾 幸雄）

アンケートをとるといふアンケートの趣旨と致しましては、先ほど私が申し上げましたように町民の皆様方、様々な方々にどのようにお考えになっているのか。どのようなニーズがあるのか、どういう風にして欲しいとか、そういうことを全体的にご意見を頂戴するのがアンケートの調査だと考えておりますので、そういう中におきましては、今、何年か前に行いましたアンケート調査ですね、それに基づいて色んな施策を行っているところです。

ご理解賜りますようお願いを申し上げます。

議員（松岡 忠）

今、町長がご理解を賜りますようにとおっしゃられましたが、町長の住んでる所と私の住んでる所、大分違います。町長の住んでる場所に関しましては、店屋も近いし、病院も近いし、私らのところの人と考えている内容が全然違うと思います。それでも同じようなアンケートでええと思っておるのですか。町長、お伺いします。

町長（丸尾 幸雄）

同じことの答弁になると思いますが、アンケート調査の意義というのは、町民の皆様方、全てのところでお住まいになっている方々、また、抽出するのは不特定に抽出をさせて頂いて、その中でそういう方がどのようなお考えで、どのようなニーズをお持ちかそれを把握、全体として把握をすること。それはやはり、不特定多数の方々からも、先ほども申し上げましたけども、最大公約数的な町民のニーズを取得する。そのための手段として、アンケート調査は行っておりますので、そのことの意義をどうか、ご理解頂きたいと思います。

議員（松岡 忠）

それでは、次の質問に入ります。

町長は常に町民の安心・安全を第一にお考えで行政を行っているかと常に述べられています。非常にいいことだと思います。その中で、町長は何が一番安心・安全に繋がると考えていますか、お伺いします。

町長（丸尾 幸雄）

松岡議員の何が一番安心・安全に繋がると考えていますかについてのご質問に答弁

をさせていただきます。

町民の安心・安全対策として取り組んでまいりました南海トラフの引き起こす大地震に備えるための公共施設の建て替えは、一応の目処がたったと考えておりますが、これからは老朽施設について、町民の皆様が安心して施設を利用し、緊急時にも活用出来るように計画的に改修、補修に取り組んでまいりたいと考えております。

以上、答弁とさせていただきます。

議員（松岡 忠）

今の中で何が安心・安全に繋がるかという内容は私にも分かります。そういうものを作っていくには私何も言いませんが、これ、話変わるんですが、駅前広場、これは安心・安全のどこに掛かるんですか教えて頂きたいと思います。

町長（丸尾 幸雄）

私の事業施策に関しましては、安心・安全対策だけではありませんので、町づくりとか、また、地域の活性化とか、様々なところで施策を練って、そしてそれを住民サービスの向上に繋げるように各担当課の中でそれを実現していく。そのようなことを常に考えておりますので、安心・安全というのは一つの政策のうちの一つです。

ご理解頂きますように、お願いします。

議員（松岡 忠）

それでは最後の、次の各課に来年度の重要施策をお伺いします。

政策観光課、建設課、教育課、よろしくお願いします。その中で、今、町長と私の質問の中身をまた再度お願いするかも分かりませんので、よろしくお願いします。

政策観光課長（土井 真誠）

松岡議員の来年度の予算要求における重要施策についてのご質問に答弁をさせていただきます。

政策観光課では人口減少対策として、本町の認知度向上や地域への誇り、また愛着の醸成を図るタウンプロモーション事業などを始め、町内の空き家活用を促進するための補助や町内で新婚生活を送る夫婦への経済的な支援など本町の将来を見据えた投資的な事業にも多く取り組んでおります。来年度につきましては、人口減少対策として実施しているそれぞれの事業に加えまして、本町の最上位計画であります第7次総合計画の策定や本町にとっての貴重な財源となっております、ふるさと納税の推進などが重要施策であると考えております。

以上、答弁とさせていただきます。

議員（松岡 忠）

政策観光課の答弁がありましたが、もう少し、今、話題になっている内容のことは、来年度やるとお考えですか。例えば、合田邸関連の分とかその辺がありますが、地域の分もあります。それについてお伺いしたいと思います。

政策観光課長（土井 真誠）

松岡議員の再質問に答弁をさせていただきます。

ただ今の合田邸につきましては、この議会におきましても基金条例の方を上程をさせて頂いておきまして、この総務教育常任委員会におきましても合田邸の保全計画について、ご説明をさせて頂きたいという風に考えております。その保全計画に則りまして、来年度以降、また色々と修繕等を行っていく必要があるという風に考えております。合田邸につきましては、文化財の保全というような観点がございますので、町としては進めていくべき事業という風に考えております。

以上、答弁とさせていただきます。

議員（松岡 忠）

今、課長から答弁がありました。基金を作ったので、あと対応していくというのを聞きました。

町長にお伺いします。今言う、その「サクラートたどつ」とか体育館とか色んな昔からの町の建物に対して、そういう今すぐというにはお金がないと。長い目で見て直していかないかという物件になると思いますが、その辺の基金という考えはありますか。町長、お願いします。

町長（丸尾 幸雄）

多度津町の老朽化したような施設の改修補修に関しましては、優先順位を決めて長寿命化計画などを参考にしながら、そういうのを作りながら、補修改修、長持ちをする長寿命化計画のようなものを作らなければいけない時は、それを作らなきゃいけないと感じております。

以上、答弁とさせていただきます。

議員（松岡 忠）

基金の話が出ましたが、幼稚園の事業に対しては、これ位かかるという数字も出ております。それに向けての基金でお金を残していくという考えは、町長ございますか。

町長（丸尾 幸雄）

基金を積み立てて行っていく事業とそれから、そうではない事業、様々な事業がありますので、それは、どういう風にすれば一番いいのか、それを相談、それを検討しながら、担当課と話をしながら、みんなでそれを決めていかなければいけない。それが長寿命化に繋がるように考えてまいります。

以上、答弁とさせていただきます。

建設課長（三谷 勝則）

松岡議員の来年度の予算要求における重要施策についてのご質問に答弁をさせていただきます。

建設課におきましては、道路、河川、港湾、町営住宅等のインフラ施設の修繕・改修など年間の維持管理経費を経常的な予算として計上していることに加え、県補助事業として町道庄・土井畑線、町道28号線の道路改良工事、国庫補助事業として橋梁長寿

命化修繕事業、高見港浦地区船揚場整備事業を予定しております。

また、下水道事業におきましては、国庫補助事業として新町排水ポンプ場の水処理整備工事、堀江第2排水区雨水排水渠築造工事の雨水対策事業を予定しております。

なお、これらの事業は継続事業であることから予算の計上を考えております。

以上、答弁とさせていただきます。

教育課長（竹田 光芳）

松岡議員の来年度の予算要求における重要施策についてのご質問に答弁をさせていただきます。

教育課では、来年度におきましても幼稚園及び小中学校において、きめ細やかな学習支援及び教育的支援等を行うための人的措置や望ましい教育環境の確保に関する事業。社会教育においては、生涯学習推進のための事業全般になりますが、特に伝統的建造物群保存地区選定に係る費用等が重点施策になろうかと思っております。

以上、答弁とさせていただきます。

議員（松岡 忠）

重要施策の中に幼稚園の問題が一つも入ってませんが、仮にこの問題が浮上したときには、どういう格好でやっていきたいと思いませんか。

教育課長（竹田 光芳）

松岡議員の再質問に答弁をさせていただきます。

幼稚園、小学校に関する適正規模適正配置に係る事業で、予算等々必要になった折には、速やかに補正予算等を組まさせていただきます、議員の皆様方にご審議頂きたいと思っております。

以上、答弁とさせていただきます。

議員（松岡 忠）

教育課の方では、伝統的建造物群保存地区選定の分に力を入れておると。逆に私ら議員もそれには、賛成・反対も含めての関心は皆さん持っております。これに関しても先ほど町長が申しておりましたように、これをやってええのかどうか。これを町民全体にアンケートをとるのはどうでしょうかね。

町長（丸尾 幸雄）

勘違いなされると思いますが、既に進めることに関してアンケートをとる必要はないと思っております。これからの事業に関してどういう風にすればいいのか、皆さん方がどう思っているのか、その最大公約数的なものを把握するためのアンケート調査になります。今の重要伝統的建造物群の指定を受ける運動におきましては、今、町民の皆様方から大きな支持を受けて、町民の方々と一緒になってやっております。町民の方が中心になってやって頂いておりますので、それは、続けていかなければいけないので、そのことについてのアンケート調査、何をアンケートで聞くのかもよく分かりませんので、そのことについてアンケート調査をするつもりはありません。

以上、答弁とさせていただきます。

議員（松岡 忠）

何をアンケートするのか分からんと。とにかく、あの施設をお金を出して、約価格3億円か6億ぐらい掛かるのかな。それ位掛かる事業をみんなに問うのは不思議でないと思いますが、賛成しとる人はおると思います。それに関連しとる人間は、それ以外の私らが住んだる田舎の人間は、合田邸に一つも興味のない人がたくさんおります。まだ白方にしてみたら、合田邸をやるんだったら、白方にある物件をちゃんとしてもらいたいという意見があると思います。やっぱし、一つの物件だけでなしに合田邸も含めて町内の同じような物件を対象にやっっていこうかという気は、町長、ございますか。

町長（丸尾 幸雄）

ちょっと話の本筋が変わってますので、私が答弁したのは重伝建に関してです。重要伝統的建造物群の指定を受けようということで、今、町民の皆様方が随分と力を入れてくれております。その中で、先日、文化庁の方がお越しになった時も文化庁の方がおっしゃるには、今、重要伝統的建造物群の指定を受けようとしているエリアは、それだけの歴史的な価値があると同時に、町民の皆様がこれだけ力を入れてやっっているということに対しては、非常に心強く思っておりますので、これを続けて下さいという風なお話がありました。これは、重要伝統的建造物群であります。そして合田邸に関しましては、合田邸は、今、多度津というのが北前船の寄港地として、日本遺産に認定されております。主たるものが、合田邸でありました。合田邸を中心に12の施設が日本遺産に登録をされております。そのような施設を活用して、多度津の歴史と伝統と文化のある魅力のある町づくりと人づくりを行っていくことによって、移住・定住、交流人口を増やしていこうという人口減少対策地方創生事業、これは私の大きな柱の一つですけれども、それを合田邸を活用しながら町づくりを行っていこうという施策でありますので、重要な伝統物群と少し離して考えて頂きたいと思います。以上、答弁とさせていただきます。

議員（松岡 忠）

重伝建に関しては、教育委員会の方で進めていると思います。今言う、その地域の人の、どういうのかな、説明はどんな風にしていたか。それと反応は、どうでしたか。

教育課長（竹田 光芳）

松岡議員の再質問に答弁をさせていただきます。

重伝建に向けての取組についてですが、地元の説明の方、もう1軒1軒、町長がおっしゃってございました民間の方と教育委員会職員が一緒になって、1軒1軒回っております。で、現在のところですが、全体のその想定地域の中には113世帯ございます。その内、72世帯はもう回っております。他の40世帯余りにつきましては、空き地であったりとかちょっと所有が分からないところも現在、いらっしゃらないところもご

ざいますので、大体のところはもうカバーさせて頂いております。で、その時の反応っていうたら何ですが、大体、概ね好意的な反応を頂いております。ただですね、まだまだ、正直説明が不足なところもありますので、今後、さらに説明の方を重ねて、理解を求めていくことも必要だと当然考えております。また、消極的な反応を示される方も当然おいでます。その方々には、もう理由をしっかりと聞きして、それを解消出来るような制度に反映させることが出来ないかということを中心に今、検討をしている最中でございます。

以上、答弁とさせていただきます。

議員（松岡 忠）

今の話で、話に行ってるという中で、今住んでる人はオーケーやと。その人の後継ぎ、息子さんとかがおると思うんですが、その辺はお話しするような話はあるんですか。

教育課長（竹田 光芳）

松岡議員の再質問にお答え致します。先ほど私の答弁で消極的な反応を示された方がいらっしゃるというお話をさせて頂きましたが、そういった方々の中には、いやそれこそ、息子に聞かなければ分からないとかですね、そういったご意見があるのも本当の話です。そういった方は、また年末年始に帰ってこられることがございますので、そういった機会を捉えて、お孫さんなのか息子さんなのか一緒に、そういう機会を捉えて、ご説明もさせて頂く予定にしております。

以上でございます。

議員（松岡 忠）

教育委員会の方は色々な話を地元に行っていてしていると。当初の方に戻りますが、幼稚園事業にしてでも方針が決まれば、そのような話をその地域に対して、やっていかなくてはならないと思っておりますので、町長の決断をなるべく早く出すようお願いいたします。

これで、私の一般質問を終わります。有難うございました。